

統語的・意味的予測の時間的性質

矢野, 雅貴

<http://hdl.handle.net/2324/1654595>

出版情報 : Kyushu University, 2015, 博士 (文学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)



氏 名	矢野 雅貴			
論 文 名	Temporal Dynamics of Syntactic and Semantic Prediction (統語的・意味的予測の時間的性質)			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	久保 智之
	副 査	九州大学	教授	上山 あゆみ
	副 査	九州大学	准教授	下地 理則
	副 査	九州大学	教授	高山 倫明
	副 査	東北大学	准教授	小泉 政利
	副 査	津田塾大学	准教授	小野 創

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、事象関連脳電位（脳の一過性の電位変動）を指標として、日本語の言語理解（文の理解）における統語的・意味的予測処理（文法や意味の情報によって次に来る要素を予測する処理）が、その予測処理に利用される時間と密接に関連することを、実験的に示したものである。

第1章では、言語理解に関する先行研究と事象関連電位についての概説を行った。第2章・第3章では、統語的・意味的予測処理の時間的性質を検討し、利用できる情報が変化しない場合であっても、統語的・意味的な予測が時間経過にともなって変化するという経験的な証拠を提示した。統語的・意味的に予測されない言語的入力、予測処理に利用可能な時間が十分な場合にだけ、左前頭部陰性波や前頭部陰性波などの早い潜時帯（刺激から反応までの時間帯）で観察される成分を惹起し、これらの成分が予測関連の処理を反映していることを示した。一方で、遅い潜時帯で観察される成分（P600や前頭部陰性波）は、予測に利用される時間に影響を受けず、統語的・意味的な再分析処理を反映していることが示唆された。さらに、統語的に複雑な文においては、予測に関連した前頭部陰性波が徐々に減衰するという観察に基づいて、予測処理における順応的な側面について議論した。第4章では、第2章・第3章で報告した実証的な証拠に基づき、言語理解研究における貢献について述べた。

以上のように本論文は、言語理解における予測処理の諸側面を明らかにしており、言語理解研究に大きく貢献するものである。よって、本調査委員会は、本論文の提出者が、博士（文学）の学位を授与されるに十分であることを認める。

